

社会で通用する基礎・基本を磨き、
よりよい自分、よりよい学校、よりよい社会を目指そうとする生徒の育成

学校教育目標

a ミッション
【地域・社会における
本校の使命・存在意義】

地域が誇る学校づくり
～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～

a ビジョン
【実現しようとする
本校の将来像】

○オール因島南（学校・家庭・地域）で、連携・協働し、生徒を育む学校
○学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校
○常にスパイラル・アップを目指し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校

尾道市立因島南中学校

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
授業改善 授業が最大の生徒指導の場であるという認識を持ち、授業に生徒指導の3機能を生かした授業づくりを行う。	○「主体的に学ぶ」意欲を育てる授業づくりの推進 学習課題の工夫	◎授業改善の推進 ■「学びに向かう意欲」を向上させるための授業の工夫を意識した授業改善の推進 ■「課題発見・解決学習」の単元開発・実践による授業改善の推進	「授業の課題について『なぜだろう』『やってみよう』と思う」生徒の割合	90%	73%		81%	B	研究テーマの副題を『探究心を育てる学習課題を通して』とし、年度当初から研修を重ねた。「授業の課題について『なぜだろう』『やってみよう』と思う」生徒の割合は昨年度末から3%向上し、「自分達の学んだことを人生や社会に生かそうと思う」生徒の割合は昨年度末から3%低下した。	○			・授業が中心なのは当然ですが、日頃の対話の中でも評価指標のような姿を肯定的に伝えることを、全教職員が行うことも生徒の変化に繋がると思っています。	意欲や関心を引き出す学習課題を設定し、内容の工夫により生徒が主体的に学びを展開するように継続的に研修を深めていく。
			「自分達の学んだことを人生や社会に生かそうと思う」生徒の割合	90%	85%		94%	B						
	○「生きて働く知識・理解」の育成と「学びの土台づくり」の充実 「社会で通用する基礎・基本」を身につけ、活かすことができる 【育成する資質・能力】 「はがれ落ちない基礎・基本」	◎基礎学力の定着に向けた指導の徹底 ■「学びのサイクル」の充実・発展（本時のめあての工夫、家庭学習の充実） ■「南中タイム（週末とテスト）」の内容及び実施方法の見直しと改善 ■ 家庭学習習慣の定着	「できた」「わかった」と授業で感じている生徒の割合（全教科平均）	85%	83%		98%	B	研究テーマに沿って学習課題の工夫を進め、昨年度末より「できた」「わかった」と授業で感じている生徒の割合が5%増加した。	○			・全体的に好評価でいいと思います。 ・アンケートに片寄らない評価指標の工夫をしてください。	今後さらに教育研究とリンクさせながら生徒に授業で「できた」「わかった」を実感できるように研修を進めていく。
			「自分の学習のためになるよう南中タイムを活用している」生徒の割合	90%	76%		84%	B		授業時数確保の観点から南中タイムは1回しか実施できていないが家庭学習や定期試験とリンクを目指した。	○			
			1日の家庭学習の時間1時間以上の生徒の割合	85%	70%	第1回 計画通り 6月実施 次回9月実施予定	82%	B	全教科が計画的に家庭学習用の課題を設定し、週1回提出させ、未提出者には、個別の指導を行ってきた。	○			・回数が100%になったのなら、次のステップを考えても良いと思います。	学びのサイクルが連動するようにし、目的意識を持って自主的に家庭学習が進むように指導を継続する。
「自分も起点」という位置に立ち、協働して取り組む教職員組織の育成。 向上心を持ち、確かなゴールイメージを持った取組により、生徒の意欲を育成する。	◎ 授業のめあて学習課題の工夫	◎ 授業のめあて学習課題の工夫	授業交流期間年3回以上の実施全職員授業公開	100%	100%		100%	A	6月は授業参観週間を持ち、全員が授業を公開し、2回以上授業参観し、成果や改善点を交流できた。	○			・回数が100%になったのなら、次のステップを考えても良いと思います。	9月は指導主事を招いて同様な形で実施予定である。また他の研修で学んだことなどを交流しながら研究を進める。
			「『道徳の時間』は自分の成長に役立っている」と捉えている生徒の割合	90%	85%		94%	B	事前の教材吟味を行ったり、生徒実態や時事に合わせた内容を実施した。	○			・A1やテレワーク等、すでに身近になっている先端社会活動のリズムに、生徒達が順応できる能力を身に付けられるよう、ご指導お願いします。	ロールプレイやパネル討議など様々な手法について研修を進め生徒の心を豊かにする道徳教育を目指す。
	プラスワンが達成できるように努力している生徒の割合	90%	85%		94%	B	単なる目標の提示に終わらず、手立てを記入し、STEPUPで日常から評価をすることで目的意識が向上している（前年度末比+11%）。	○			・この項目は数値よりも改善策にあるように、課題のある項目についてのPDCAを考えてみてはどうでしょうか。	今後プラスワン活動が目標と手立てと実践と評価がリンクする形で取り組み、質の向上を目指す。		
○生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少	◎不登校の未然防止 不登校生徒への支援の充実 ■教育相談・家庭連携・関係機関等との連携の充実 ・SCとの教育相談委員会の充実、 ・SSWの活用による生活改善の推進 ■生徒理解・安心できる集団づくりの推進（アセス活用、面談、学級経営の充実）	◎不登校の未然防止 不登校生徒への支援の充実	アセス「生活満足感」の向上（昨年度 平均値5.2）	55	57		104%	A	全校生徒の平均値が57となった。STEPUPの毎日の点検や教育相談活動により日々の生徒理解に努めていることが成果につながっている。	○			・改善策にある通り、個別の課題への対応が必要です。あくまでも組織的対応として、取り組んでください。	反社会的スキルが一番低いので（52）コミュニケーション能力が向上するような取り組みを検討する。
			昨年度長期欠席生徒（11人）のうち好ましい変化が見られるようになった生徒の割合（昨年度54%）	60%	92%		153%	A	今年度からSSWが配置され、活用方法などについて研修を実施した。生活改善が必要な不登校生徒にSSWと共に対応した。	○			・注意をすれば直すという、人間関係もできています。大切にしていきたいことです。 ・登校日数や行事の変化による生徒の心理的影響は、これから想定外のものが現れるかも知れません。これからもう一層、生徒の変化に注意していただければと思います。 ・感染症対策のため学校行事等が中止や縮小となり、学校を訪問することが少なくなったので、情報発信をお願いした。 ・“あいさつ”が本当にいいもので、自分も相手も気持ちがいいものだ、実感してくれるといいです。まずは大人からかも。	不登校以外にも遅刻が常習化している生徒もいる。個別の課題に対応しながら生活改善の指導を充実させていく。
	「学校や社会のルールを守っている」と思っている生徒の割合	95%	91%		96%	B	服装などの大きな乱れはないが、名札やシャツなど細かい部分は注意されれば直すというケースがある。	○			・自分の役割を自覚して、その責任を果たすことで、まわりの人に役立っていると感じたことある」と捉えている生徒の割合	規範意識を高く持てるよう委員会活動と連動しながら取り組みを進める。		
○自らを律するとともに、学校生活に充実感を見いだせる生徒の育成	◎生徒指導体制の改善 ■全教職員による指導の徹底、家庭連携の充実 ■充実感・達成感の向上（生徒主体の活動の充実） ■挨拶の活性化	◎生徒指導体制の改善	「自分から積極的に挨拶をしている」生徒の割合	90%	76%		84%	B	1人1役以上の係・委員会活動を担っている。最近では人の仕事を積極的に手伝う生徒もいる。	○			挨拶について明確な目的意識を持たせ、主体的に挨拶ができるように取り組みを継続する。	
			学校でも地域においても「自分から積極的に挨拶をしている」生徒の割合	90%	82%		91%	B	部活中の挨拶について生徒会主導で改善したり、授業最初の挨拶を生徒主体の形に変更した。	○				

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成） B：80≦（ほぼ達成）<100
 C：60≦（もう少し）<80 D：（できていない）<60